

2025年度 日本地すべり学会賞受賞者

【国際賞】 檜垣大助 氏（日本工営株式会社，正会員）

●国際賞

地すべりに関する日本と海外との国際間の研究・技術開発・共同研究・教育活動等の交流事業に功績のあったもの。

●受賞理由：

檜垣大助氏は、国内外の土砂災害減災，発展途上国での応用地形学的視点と地域特性に合った対策手法の提案や，日本地すべり学会ICL（International Consortium on Landslides）委員会の委員長としての活動など，本学会での国際面の斜面防災技術協力推進に大きく貢献されてきました。1991年に開始されたネパール政府・JICA治水砂防技術センタープロジェクトでは，建設省土木研究所に在籍する傍ら，その準備過程に関わられました。その後，1996年9月から2年間，JICA長期派遣専門家（砂防）として同国に赴任されました。その中で，斜面全体に生活空間の広がる同国の地形・地質特性を理解したうえで，簡易な土木工法と植生を組み合わせた住民が参加できる斜面や河岸の侵食防止工法を，同国技術者とともに提案されました。1998年より弘前大学の教員に転じてからも，ネパールと類似の地質・地形からなるブータンでの土石流災害について，2000年に同国政府の招聘により現地に対策指導を行いました。また，本学会の調査団員として，2005年パキスタン北部地震による斜面災害調査と防災対策の提言を行い，同国ジャムカシミール州政府首相より感謝状を授与されました。その後も，ネパールでの低コストな対策の効果検証に取り組み，この対策が，ガリーや河岸の侵食から土地を保全するだけでなく，森林回復など，住民にとって自然資源回復の面でも有効で持続可能性を持つことを，後述する第5回斜面防災世界フォーラム（WLF5）で論文発表されています。これらの活動を通じて，発展途上国の現地に適した，簡易で安価な斜面防災技術を発展させたことは，現地政府に高く評価されています。一方，2006年には，全国から国際協力に興味を持つ学生の学びの機会を大学持ち回りで設ける国連大学セミナーを，プログラム委員長として受け入れるとともに，博士課程の留学生やJICAの研修コー

スにおける個別研修員の受け入れを行い，大学で指導されました。さらに，ICLが本学会，（公社）地盤工学会ほかと共催し，2021年11月に京都市で開催した第5回斜面防災世界フォーラム（WLF5）では，国内実行委員会副委員長として，中心的に同会議の企画・運営をされました。424件の発表があった中で，笹原克夫高知大教授とともに，本学会の企画で日本の斜面防災技術を海外に紹介するセッションを設け，海外技術協力事例，官・民・学からの日本の地すべり対策技術紹介など，計52件の発表を実施したことは，同分野での日本のプレゼンスを高めるのに貢献したと言えます。また，2023～24年には，NPO法人の活動で，散逸の危機に瀕していたネパールでの治水砂防技術資料の電子化保存を現地で行い，今後の土砂災害軽減の資する利用が期待されます。そして，現在もJICAの洪水対策技術協力プロジェクトの専門家として同国で活動されています。

以上のように檜垣氏の斜面防災の国際分野における多大なる貢献を理由に，2025年度の「国際賞」の受賞者として相応しいと評価しました。

●略歴●

- 1976年3月 東北大学理学部地学科卒業
- 1983年3月 東北大学大学院理学研究科後期課程中退
- 1983年4月 建設省入省
（土木研究所，近畿地方建設局，岐阜県，神奈川県
JICAネパール治水砂防技術センター等勤務）
- 1998年10月 文部科学省出向，弘前大学農学生命科学部助教授
- 2003年4月 弘前大学農学生命科学部教授
- 2019年3月 同 退職
- 2019年5月 日本工営株式会社入社

